

●……子どもと家族

私たちは、学校、職場、余暇活動などで、さまざまなグループに属しています。しかし、私たちにとって最も大事なグループは、それがどんなタイプであるかにかかわらずなく、家族です。人々は「家族は、社会全体がその上に成り立っている基礎である」と、やや重々しく表現します。

家族の中であって、私たちは親近感、思いやり、連帯感、相互理解を感じます。一方、そこには要求されるものもあります。お互いへの配慮や敬意、そして、家族の一員として家庭内の仕事を分担するなどです。家族にあつては、私たちはありのままのままでいながら、受け入れられ好かれていると感じることが出来ます。たとえ馬鹿なことを言ったりしたりしてもです。そういうことは、その他のグループでは決してありません。

あなたは、ここに述べられたような、家族についての積極的な評価に抗議したくなるかもしれません。あなたは、幸福な家族もあれば、そうでない家族もあることを知っています。若者のほとんどは、家族から離れて何もかも自分でできるように早く大きくなりたい、という欲求を感じているものです。一部の人々にとつては、その気持ちは非常に切実なものです。彼らは、拘束や圧迫、仲たがいや喧嘩、そして、うまくいっていない家族から離れたがっています。

課題

- ① 家族の一員としてみて、家族の中で一番好きなことと嫌いなことを、それぞれ五つ挙げましょう。友達の挙げたものと比較しましょう。
- ② a. 子どものいる家族への、現金援助を五つ挙げましょう。
b. 社会保険庁やコミュニケーションの社会事務所で、規則や、現金援助が実際にいくらであるかなどを調べましょう。
- ③ 各政党が、家族政策についてどんな意見をもっているかを調べましょう。
- ④ あなたは、詩「子ども」のどこに共感しますか。激励や賞賛が良くないのはどんなときですか。この詩は、大人にたいして無理な要求をしていますか。両親が要求にたいして応え切れないのはどんなときか、例を挙げましょう。

子ども

ドロー・ロー・ルト

批判ばかりされた 子どもは
非難することを おぼえる

殴られて大きくなった 子どもは
力にたよることを おぼえる

笑いものにされた 子どもは
ものを言わずにいることを おぼえる

皮肉にさらされた 子どもは
鈍い良心の もちぬしとなる

しかし、激励をうけた 子どもは
自信を おぼえる

寛容にであった 子どもは
忍耐を おぼえる

賞賛をうけた 子どもは
評価することを おぼえる

フエアプレーを経験した 子どもは
公正を おぼえる

友情を知る 子どもは
親切を おぼえる

安心を経験した 子どもは
信頼を おぼえる

可愛がられ 抱きしめられた 子どもは
世界中の愛情を感じとることを おぼえる